

I. 平成22年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成20年11月～平成26年3月(5年5ヶ月)

1. 概況

富良野駅前地区土地区画整理事業によるJR富良野駅前広場拡張による交通結節点整備と新たな商店街の形成は、まちの入口として市民及び観光客を集約させ、高質空間形成による「無頭川モール」は癒しの空間へと生まれ変わり、イベント広場として多くの市民が利用され賑わいの創出に寄与し、また一体施行の富良野駅前地区市街地再開発事業集客複合施設「富良野市中心市街地活性化センター(ふらっと)」は、利用計画目標数 48,000 人を大きく上回る 93,000 人の利用により周辺商店街へと回遊し、周辺商店街の歩行者通行量は増加傾向にあり周辺商店街の賑わいは回復基調の中で、平成22年4月オープンした「フラノ・マルシェ」は、入込み客計画目標30万人を約半年の9月上旬に達成し、周辺商店街、特に飲食店への波及効果が顕著に見られ、中心市街地内の歩行者通行量の増加を押し上げている。

居住人口については減少傾向から微増ではあるが上向き傾向に兆しが見られる。

このようなことから、今後とも基本計画に基づき各種活性化事業を推進していくことにより、中心市街地全体への活性化が見込まれ、目標達成が可能な見通しとなっている。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
にぎわいと商業の活性化	歩行者交通量	3,094 人 (H19)	3,700 人 (H25)	2,864 人 (H22)	—	①
まちなか居住の推進	居住人口	2,741 人 (H19)	2,900 人 (H25)	2,674 人 (H22)	—	①

- 注) ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
 ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
 ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

(1) 歩行者通行量

富良野地域の観光入り込み客数が増加に推移している状況の中で、ほぼ計画通りに事業が進捗し、その事業効果が現れており、今後、関係機関と連携して中心市街地の魅力を高め賑わいの創出事業を推進することにより、目標値達成は可能であると見込まれる。

(2) 居住人口

厳しい社会情勢の中で、住宅建設の動きは停滞の動きが見られますが、おおむね計画通りに進捗し、今後、東4条街区市街地再開発事業の整備等が進み、居住の利便性がさらに向上することで目標値達成は可能であると見込まれる。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

5. 今後の対策

平成22年上半期(4月～9月)の観光客の入り込み数は、前年度 1.2%増の129万人と、中心市街地での観光滞留施設「フラノ・マルシェ」、郊外の新たな観光施設(六花亭)のオープンなどが、前年テレビドラマのロケ地「風のガーデン」の公開で増加した入り込み客数を20万人も上回る効果を生み出しました。全国魅力度ランキングにも2年連続全国8位の評価をいただいている。

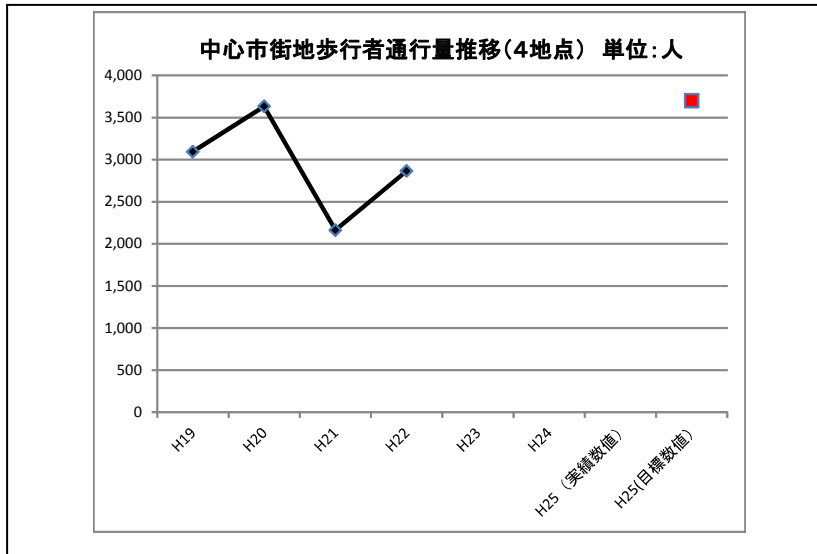
そのような状況のなかで、昨年の「ふらのワインぶどう祭り 2010in まちなか」は、道内外から過去最多の 9,500 人／日の集客があることから、今後とも基本計画掲載事業を積極的に推進し、関係機関との調整、事業進捗管理を図り、富良野市中心市街地活性化協議会での意見交換、情報交換による論議を重ね、中心市街地の総合的かつ一体的な推進を進めていくことにより、まちなかの魅力を高めまちなか賑わいの創出を図っていく。

II. 目標

目標「にぎわいと商業の活性化」

「歩行者交通量」※目標設定の考え方基本計画P62～P68参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H19	3,094 (基準年値)
H20	3,632
H21	2,162
H22	2,864
H23	—
H24	—
H25	3,700 (目標値)

※調査方法: 歩行者通行量調査(中心市街地商店街4箇所)※基本計画P64参照

※調査月: 平成22年10月8日(金曜日)午前10時～午後8時

※調査主体: 富良野商工会議所

※調査対象: 通行歩行者及び通行車輛

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. フラノ・マルシェ開発事業(ふらのまちづくり株式会社)

事業完時期	【済】平成22年3月
事業概要	国道沿いの中心市街地玄関口に新たな観光滞留施設の整備を図る。 商業施設・駐車場 敷地面積 6,634.16 m ² 建物延べ面積 1,336.01 m ² 規模 地上1階建て2棟 駐車場 93台
事業効果又は進捗状況	中心市街地、まちの玄関口として、富良野の食材や加工食品を活かした「食文化の発信基地」である新たな観光滞留拠点施設が平成22年4月28日グランドオープン。6月9日には来場者10万人、オープンから約半年後の9月3日には計画目標である30万人を達成。平成23年3月31日年度末には45万人を達成する見込み。 (H22・12末現在 418,100人)

②. 東4条街区市街地再開発事業(ふらのまちづくり株式会社)

事業完了時期	【実施中】平成25年3月
事業概要	フラノ・マルシェに隣接した北側地域を、日常生活に必要な様々な機能と居住空間をまちなかに集積、お年寄りや一般市民が歩いて暮らせ

	<p>る利便性に富んだ市街地を創出する。</p> <p>面積 1.79ha</p> <p>商業集積: 温浴施設・金融機関・高齢者マンション・クリニック・行政窓口・電器店・ブックストアー</p>
事業効果又は進捗状況	<p>進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年6月18日 再開発準備会設立 ・平成21年度着手(基本設計・資金計画) ・平成22年7月23日 都市計画決定(地区計画決定)

③. まちなか居住推進会議の設置（富良野市中心市街地活性化協議会）

事業完了時期	【済】平成20年11月設置
事業概要	建設未利用地の有効活用の提案やまちなか居住の利便性を積極的にPRし、共同住宅建設の促進により、歩行者通行量の増加を図る。
事業効果又は進捗状況	中心市街地活性化セミナー及び研修会の開催と「まち居住空未利用地活用推進プロジェクトチーム」設置強化により、共同住宅1棟6戸の建設を始め、1戸建て住宅1棟の建設が図られている。

④. サンライズ・パーク（仮称）開発事業

事業完了時期	【実施中】平成24年3月
事業概要	<p>ポケットパーク・まちなか駐車場整備 1,597.2 m²(484 坪)</p> <p>駐車場 大型バス7台他・普通乗用車</p> <p>ポケットパーク</p> <p>タウンモビリティ・ステーション</p>
事業効果又は進捗状況	<p>平成22年より地域関係権利者との交渉開始、条件整備中。平成23年度事業開始予定。</p> <p>タウンモビリティ・ステーション機能拡充のため、平成22年8月地域ローカルFM局、ラジオ・スタジオを計画区域隣接、経済センター1階フロアに誘致し、地域情報発信拠点の整備を図られた。</p>

⑤. 「どんとまとめて！」まちなか活性化事業

事業完了時期	【実施中】平成21年～平成25年度
事業概要	<p>各種ソフト事業によるまちなか回遊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街ポイント事業の高度化 平成23年度実施予定 ・まちの話題情報お届け事業 平成21年度から実施 ・おもてなしづくり事業 平成21年度実施 ・ギャラリー・ロード整備事業 平成21年度実施 ・地域資源「ふらのブランド」開発研究事業 平成21年度実施 <p>※各種事業の詳細は基本計画P85～87参照</p>

事業効果又は進捗状況	まちの話題情報お届け事業は富良野情報発信のホームページを作成、富良野観光協会との連携により、フラノ・マルシェ内に観光インフォメーションを設置し、おもてなしづくり事業により作成した市内マップを配布、ギャラリー・ロード整備事業は、市内12カ所の店舗ショーウィンドウに全国公募した作品を展示、市民、観光客も商店街を散策する楽しみを提供し、歩行者通行量の増加に大いに寄与している。
------------	--

⑥. 観光資源活用推進事業

事業完了時期	【未】平成26年3月
事業概要	中心市街地で6万人近くの集客を持つ、「北の国から」資料館及び隣接ふらの広場を、ギャラリー・ロード事業など各種ソフト事業と連動させ、屋内イベント空間としての拡充を図り、まちなか芸術館、ミニコンサート、まちなか落語会、フリーマーケットなどの会場と活用し、賑わい創出する。
事業効果又は進捗状況	ふらの広場の経営形態の変更が生じ、各種ソフト事業と連動させた屋内イベント空間としての活用が困難な状況となっている。

⑦. 「無頭川モール」(イベント空間) 賑わい推進事業

事業完了時期	【実施中】平成21年～平成25年度
事業概要	富良野市中心街活性化センター(ふらっと)隣接地の「無頭川モール」(イベント空間)を活用し、沿線商店街、市民実行委員会、民間団体と連携し、夏期期間はビヤ・ガーデン、フリーマーケット、屋台村、まちなか演奏会(ブラスバンド)。冬期期間は「ふらの仄仄雪灯り祭り」と通年的にイベントを開催し、ギャラリー・ロード事業など各種ソフト事業と連動させ、野外イベント空間としての拡充を図り、賑わい創出する。
事業効果又は進捗状況	夏季実施のビヤ・ガーデンは「フラノ・ビアモール」として年3回開催、市民にも認知され、第1回目約800人が2回目以降約1,000人を超える集客となり、開催のたびに増加するイベントと成長した。 冬季実施の「ふらの仄仄雪灯り祭り」も、重ねるごとに市民に認知され、厳冬の季節、家族で楽しむ冬のイベントとして定着し、去年は約300人が訪れ周辺商店街の賑わいを創出している。

⑧. グリーン・フラッグ推進事業

事業完了時期	【実施中】平成22年～平成25年度
事業概要	地元こだわった料理(地元食材)の開発を行い、認定を行う。認定された飲食店にはグリーン・フラッグを贈呈し店頭に掲示してもらい、地元食材の利用促進と市民や観光客には店選びのイベント性を高め、地域資源「ふらのブランド」開発との連動とも重なり、歩行者通行量の拡大を図り、賑わいを創出する。

事業効果又は進捗状況	平成22年9月「ふらのグリーン・フラッグ制度」実施 <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年 9月第1回認定審査会 29店認定 ・平成22年11月第2回認定審査会 6店認定(現在35店の認定) 市民及び観光客に地元食材にこだわったお店の紹介として店選びのイベント性を高め「まちなか回遊」の効果を高めている。
------------	---

⑨. フラノブランド商品開発展開事業

事業完了時期	【実施中】平成21年～平成25年度
事業概要	行政、観光協会、物産振興会、商店街等とともに「フラノブランド検討委員会」を組織し、周辺広域観光拠点との連携による情報発信力を活かしながら実施体制を構築し、スイーツブランドを起点に他の産業ブランド化を目指し、ブランド構築の担い手を地元の中で育成するべく研究する事業で、商業者の意識改革とともに市街地の新たな魅力創出が期待でき、来街客の誘引と、これに対応した商業者の取り組みが根付くことで中心市街地の活性化に必要な事業である。
事業効果又は進捗状況	「ふらのグリーン・フラッグ制度」制度と連携し、具体的活動は富良野商工会議所を中心に、フラノ・マルシェと連動して新たな商品開発を行い、結果、NHKやTBSのTV全国放送に取り上げられた「なまら棒」、地元の豚肉を利用した「豚まん」、学校給食に採用となった「たまねぎチップス」など商品開発が行われ、市民から観光客に好評を得ている。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

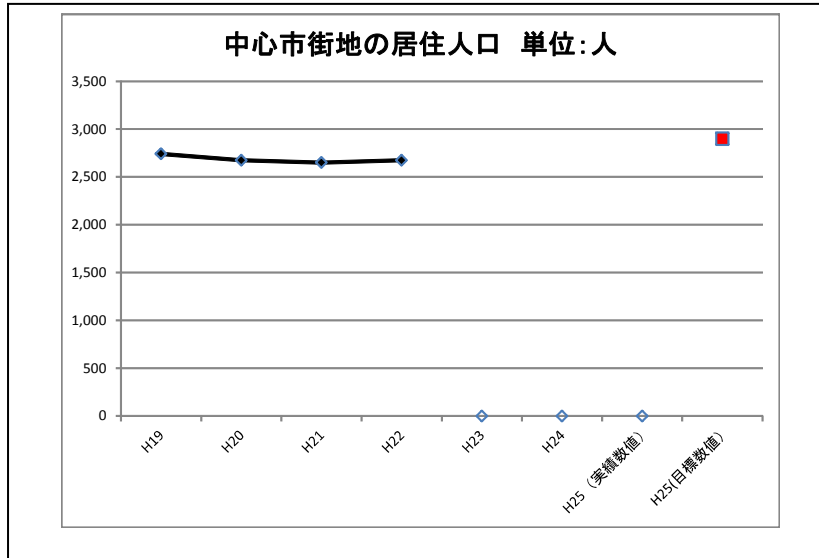
富良野地域の観光入り込み客数が増加に推移している状況の中で、ほぼ計画通りに事業が進捗し、その事業効果が現れています。

商店街経営者に対する意識調査(平成22年12月調査)において「お店の前の歩行者は増えましたか？」に対して「大いに増えた」が3%、「やや増えた」が34%と、賑わいの回復傾向を感じられていて、フラノ・マルシェのオープンは57%の経営者が「良い影響をもたらした」と回答しています。さらに26%が商売に対する気持ちに「変化を持った」と回答していることから、今後の連携により、さらに中心市街地の魅力を高め、賑わいの創出事業を積極的に推進することにより、平成25年度の計画目標値を達成することは可能であると見込まれる。

目標「まちなか居住の推進」

「居住人口」※目標設定の考え方基本計画P69～P71参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H19	2,741 (基準年値)
H20	2,674
H21	2,650
H22	2,674
H23	—
H24	—
H25	2,900 (目標値)

※調査方法；住民基本台帳

※調査月；平成23年3月31日

※調査主体；富良野市

※調査対象；平成23年3月31日現在の住民基本台帳による中心市街地（77ha）居住人口

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 東4条街区市街地再開発事業（ふらのまちづくり株式会社）

事業完了時期	【実施中】平成25年3月
事業概要	【再掲】P3参照
事業効果又は進捗状況	進捗状況 <ul style="list-style-type: none"> 平成21年6月18日 再開発準備会設立 平成21年度着手(基本設計・資金計画) 平成22年7月23日 都市計画決定(地区計画決定)

②. まちなか居住推進会議の設置（富良野市中心市街地活性化協議会）

事業完了時期	【済】平成20年11月設置
事業概要	【再掲】P4参照
事業効果又は進捗状況	中心市街地活性化セミナー及び研修会の開催と「まち居住空未利用地活用推進プロジェクトチーム」設置強化により、共同住宅1棟6戸の建設を始め、1戸建て住宅1棟の建設が図られている。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

おおむね計画どおりに推移しながらも、厳しい社会情勢の中で、住宅建設の動きは停滞の動きが見られるところがありますので、建設未利用地の有効活用の提案やまちなか居住の利便性を積極的にPRし、共同住宅建設の促進と、東4条街区市街地再開発事業の整備等が進み、居住の利便性がさらに向上することで目標値に達成することは可能であると見込まれる。